

大妻女大家政：大森正司，安田順子，加藤みゆき，大竹智恵子，岡田安代
 大妻高校：吉田しげ子，岐阜大教育：長野宏子，東京農大総研：吉村典夫

(目的) 先に，家政学雑誌における研究課題を科学技術分類表(CST)で分類考察し，その変遷の特色を明らかにした。今回は，家政学の構成と構造を明らかにするために，その要素技術について「要素技術連関解析手法」を用いて検討を行ない，若干の知見を得たので報告する。要素技術連関解析とは，複数の要素技術からなる複合技術の構成と，要素技術間の関係を解明することを目的とし，要素技術を網羅した階層構造を持つファセット分類表を用いて，複合技術を解析する手法である。

(方法) 創刊以来の家政学雑誌に掲載された論文のうち2クク件をカンパリングし，研究の素材とした。資料はCSTを用いて，インデクシングし，セレクトカードによるデータファイルを作成し，セレクトカード用分類集訂機を用いて解析した。特に今回は，大項目と中項目のレベルで調査し，また，研究者の状態(研究者数，性別，年齢，地域……他)等についても要素技術とクロスさせ，経時的に解析した。

(結果) ①要素技術の使用頻度は，生活・生活科学・生活技術が最も多く22%，次いで化学10%，生物学の共通問題9%，物質製品5%，加工の結果6%，農林水産加工産物5%の順であった。②共出現要素技術種類数の最も多かった要素技術は，生活・生活科学・生活技術であり，次いで化学，生物の共通問題の順である。③各要素技術間の関係の密接さ，すなわち，連関度は，化学と物質製品が最も高く，次いで化学と農林水産加工産物であった。本調査により，研究課題の解析に本手法を適用した場合の有効性が明らかとなり，今後は，分類表の見直し，家政学関係の他の資料の利用，細項目レベルの解析等が必要であると考える。